

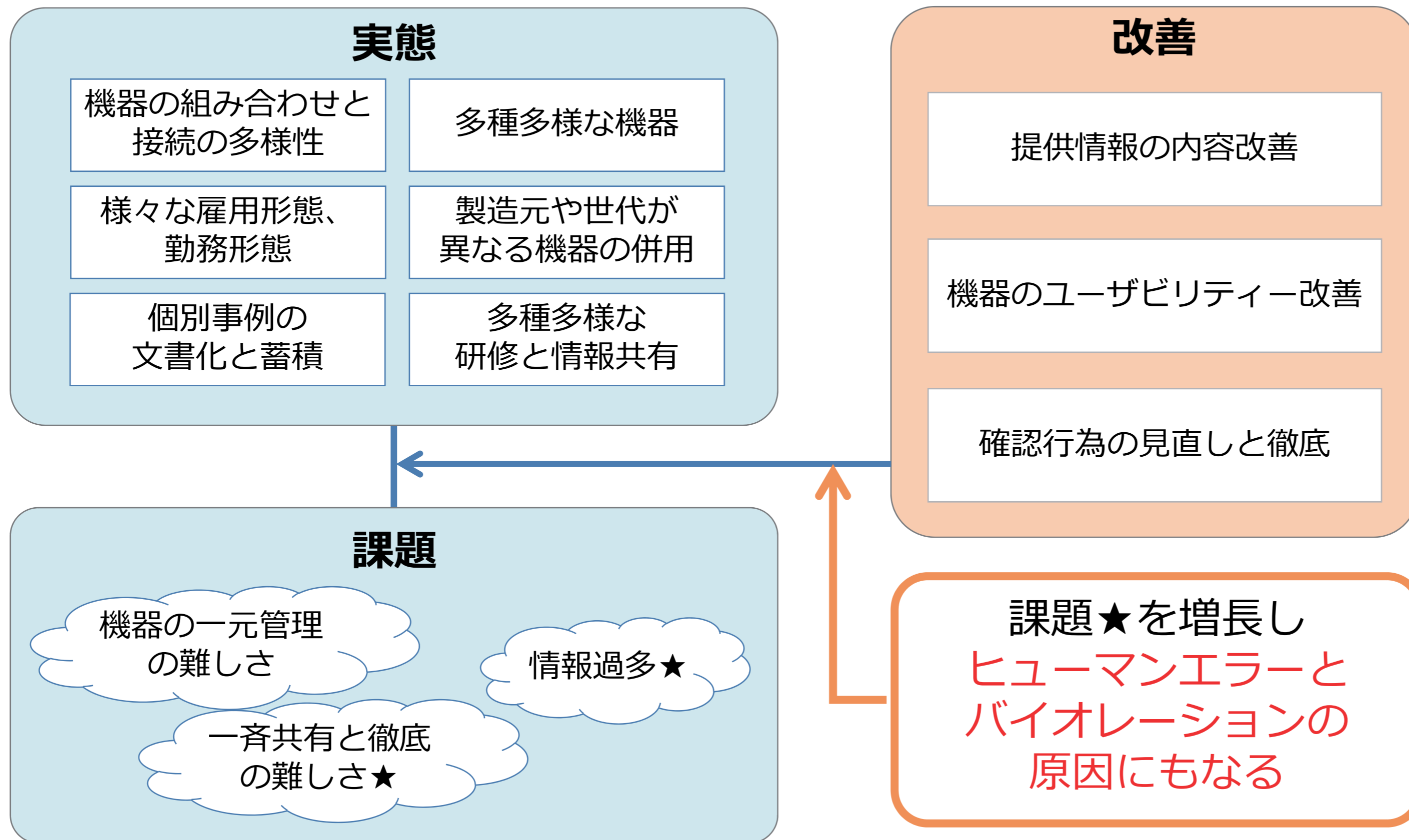
医療現場における情報提供とそのエビデンスのあり方の見直しに関する研究

黒田 聡 大阪大学COデザインセンター

藤井 清孝 西神戸医療センター、篠原 智誉 三菱京都病院

小山 和彦 近畿大学奈良病院、吉田 哲也 経済産業省ヘルスケア産業

1. 研究と文書化の効果が医療現場で実装されないのはなぜか



分担研究における文献調査と考察の結果、インシデント事例に対する研究や文書化による可視化は相応に行われ、かつ医療現場での対策も行われていることが確認できた。また、インシデント原因の分析を通じて、事前研修やユーザビリティ改善では回避できない使用者の思い込みが原因となっている事象が少なくないことが確認できた。

事例の文書化とこれに基づく教育研修は、対象者のリテラシーに働きかける改善アプローチである。

分担研究の結果は、リテラシー変容に期待されている効果の発揮を阻害する要因が存在すること、または促進する要因が欠落している可能性を示唆する。

参考：Dissemination and Implementation Science (普及と実装科学)

2. 「情報過多」「一斉共有と徹底の難しさ」に着目

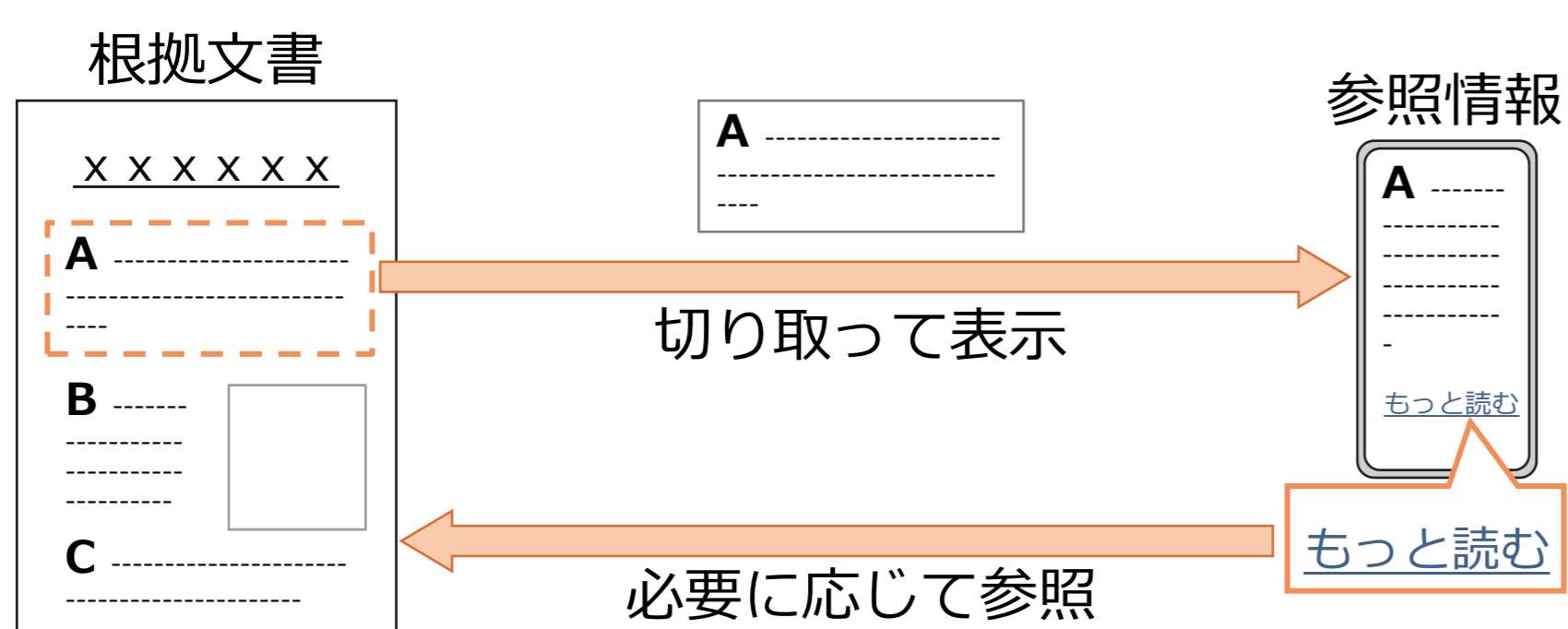
3つの課題のうち、コミュニケーションに関連する課題に検討対象を絞る。「情報過多」を阻害要因の存在として、「一斉共有と徹底の難しさ」を普及要因の欠落として着目する。情報提供の絞り込みと適時性の追求が対策（戦略）として考えられる。また、思い込みの抑止には、認知バイアスに働きかけるアプローチが有効であるので、考慮する（戦略）。

阻害要因の軽減方法（戦術）として右記「1、2、3、4」、促進要因の増加方法および認知バイアス対策（戦術）として右記「2、4」を提示する。また、「5」は必須である。

【適時性と絞り込みを追求するための5つの戦術】

1. 必要な情報のみを提供する
2. 必要な時に提供する
3. 必要としている利用者だけに提供する
4. 必要な場所、閲覧デバイスにて提供する
5. コンプライアンスを担保するために、体系化された情報への誘導・紐付けも確保する

3. 非医療分野での取り組みをモデルとするアプローチを提言



本稿冒頭で示した医療現場の実態は、製造業の工場や機器整備拠点と類似性が見られる。また、認知バイアス対策では、交通安全活動にもモデルが見いだせる。

類似性の存在から、非医療分野での取り組みをモデルとし、適時性の追求と提供情報の絞り込みを追求するアプローチが成立し得る。

ヘルスコミュニケーション技術とテクニカルコミュニケーション技術を組み合わせて用いると共に、データサイエンス領域の技術を利用することによって、医療現場での実装を実現するコミュニケーション技法を開発する。その上で、その実用性と効果を実証的研究によって確認しつつ、提言に繋げていきたい。



行動経済学のナッジ理論を実践している例。認知バイアスへの対処に用いることができる。